



No.09 令和 6年 12月24日発行

三条市立栄中学校

電話 0256(45)3873

FAX 0256(45)3874



<https://www.city.sanjo.niigata.jp/section/sakaechu/>

令和6年を振り返って

2024年、令和6年もあと少しで終わりとなります。どんな年でしたか？どんなところが成長できましたか。どのようなできごとがあったのか振り返ってみると、元日の能登半島地震、3年生が修学旅行で乗車した北陸新幹線が金沢（石川県）から敦賀（福井県）まで延長、パリオリンピックパラリンピックの開催、佐渡金山世界文化遺産登録、新紙幣発行、大谷翔平選手の大活躍、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞受賞（1974年の佐藤栄作元相以来の50年ぶり「非核三原則」；核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず、で受賞）等、様々な出来事がありました。

学校の出来事で言うと、地震の影響で様々な部分を修繕、定期テストの回数が4回から3回に、運動会雨天順延の後大成功、合唱コンクール「歌声の栄中」をさらに発展、等々、様々な出来事のあった2024年、令和6年でした。

冬休み中に新年を迎えます。日本の場合は年末の大掃除で一年の汚れや悪い運気を払い、おごそかな雰囲気新しい年を迎えるという形が伝統的な年末年始という形になります。除夜の鐘（じょやのかね）や二年参りや初詣（もうで）といった伝統的な行事で、騒いだりすることは少ないのが日本の風習です。

数年前にヨーロッパの数か国を年末年始にかけて旅行しました。その時の雰囲気は、日本と違うなと思いました。大晦日はイタリアの首都ローマにいました。翌日の出発が早い時間だったのでホテルにいましたが、街中に花火が鳴り響き、広場に人々が集まって新年を迎えるのを祝っていました。ちなみにイタリアでは、新年を新しい赤い下着を着けて迎えるのだそうです。次の日はフランスのパリに行きましたが、すでに平常に戻っていたようで色々なお店も普通に開いていました。

他に、「中国」では旧暦の暦を使っていて、日本の暦で言うと1月末から2月中旬に1週間程度「春節（しゅんせつ）」と言われる豪華な祭りを行います。2025年は1月28日～2月4日だそうです。爆竹（近年は大気汚染等で禁止している地域もある）を大量に鳴らし獅子舞（ししまい）等が披露されます。「南アフリカ」では古い家具を処分し、部屋を新しく飾り付けたり新しいアイテムを入れるそうです。「メキシコ」では人間と同じ大きさの人形を作って燃やし、心をリセットするそうです。火薬が入っていて爆発させるようです。「デンマーク」では友人や親戚の家に行ってお皿を玄関に投げつけて割るという風習があるそうです。幸運と人脈に恵まれるという意味があるそうです。

2025年、令和7年の干支（えと）は「乙巳（きのとみ）」で、へびを意味する「巳（み）」です。へびは脱皮を繰り返し成長していくということで、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」という意味を持つ年になります。新年になったら「どのような目標に向かって、どのような努力を重ねていくのか」を考え、そして、その目標に第一歩を踏み出す、そんな冬休みにしてほしいと思います。（文責：校長）

